

## 相生歴史資料マップ6 下土井城

矢野川本流と小河川に挟まれた標高 129.3mの丘に下土井城があります。尾根を削って堀切をうがった典型的な南北朝の山城です。下土井城は一般に、岡豊前守により築城されたといわれています。『岡城記』(岡氏系譜)によれば、岡豊前守光国は文永4年(1267)に矢野荘に入部し地頭職となったといい、以来12代光顕の代、関ヶ原合戦に至るまで下土井城主であったといわれています。城の南は矢野荘の中心部の平野、東は寺田氏ゆかりの地であり、寺田法念が悪党となり東寺と衝突したところでした。

下土井城本丸の北に、三重の堀切があります。内側の堀切の高さは10m以上あると言われ、急角度になっています。登るのは無理で迂回します。

本丸には三角点があります。南を見下すと大避神社が見え、矢野荘の中心部の平野と西国街道を一望できます。

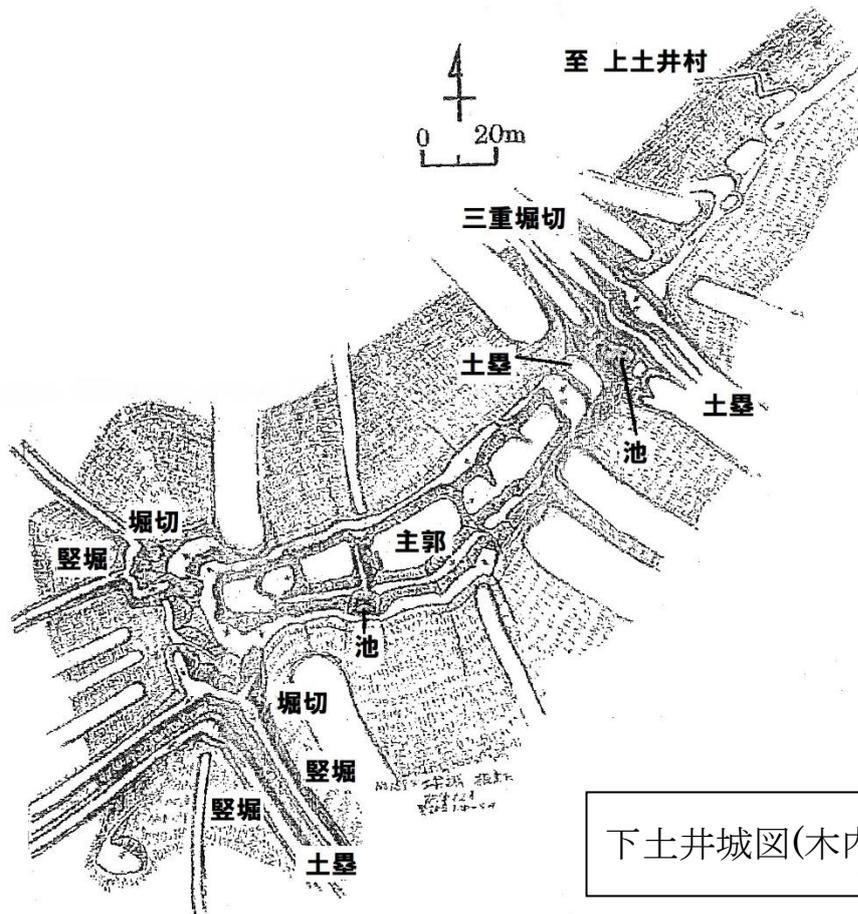
東には、矢野川が流れ寺田と下田の集落が見えます、相生駅から播磨公園科学都市に向かう県道テクノラインが通っています。

**堀切**：尾根筋を分断する堀を言う。山城の弱点となる尾根伝いに侵入する敵を防ぐため設けたもの。

**塹堀**：丘城、山城などの斜面に設けられた空堀で、等高線に対して直角に掘られた堀。



下土井城(遠景)



下土井城図(木内内則 2015 年より)



堀切



豎堀



参考

- ・松本恵司『相生若狭野 旗本浅野陣屋 礼座保存プロジェクト』(浅野陣屋礼座保存ネットワーク、2016 年)
- ・『兵庫山城探訪』(兵庫県立考古博物館、2018 年)